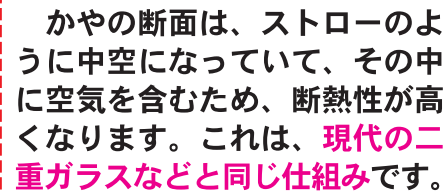


日本の伝統的な住まいを見てみよう（四国村）

53



日本の伝統的な住まいを見てみよう（四国村）



※資料59・60（省エネ住宅）と
関連付けて使用することで、
現代の省エネ住宅に生かされ
る昔の住まいの中での工夫に
気づくことができます。

この写真は、四国村にある民家を撮影したものです。農村の過疎化が進み、近所や親戚同士による屋根の葺き替え作業が困難になったことなどが原因でほとんど見かけなくなった茅葺き屋根ですが、軒が深く、夏の強い日差しを遮る遮光性を備えるとともに、断熱性が高く、さらに通気性も兼ね備えています。

また、水はけを良くするため、**急勾配**になっていることから、結果として屋根裏に**広い空間**が生まれ、太陽からの熱を室内に伝えにくいことで、さらに夏を涼しく過ごすことができます。(茅葺き屋根の仕組図参照)

このように、昔の茅葺き屋根には、(特に夏の)家を快適に過ごすための知恵や工夫が見られますが、それは現代の省エネ住宅にも生かされており、深いひさしや軒を設けるほか、屋根や外壁などに断熱材や断熱二重ガラス・断熱サッシが使われたり、屋根裏には室内にこもった熱を排出する通気口が設けられたりしています。※このほかにも、①土壁→断熱性が高い、②高い床下→風通しがよく、湿気がこもりにくいなども、同じく家を快適に過ごすための知恵や工夫として押さえておくとういでしょう。 撮影協力：公益財団法人四国民家博物館(四国村)

茅葺き屋根の仕組み図

煙出し

日差しを遮る深い軒

厚みがあるため断熱性が高い

広い空間

通気性

水はけのよい急勾配

雨で湿った屋根は腐りやすく、虫なども発生しやすくなりますが、囲炉裏やかまどの煙による燻煙効果で乾燥し、虫の発生を抑えて、屋根を保護していたようです。

茅葺き屋根の「茅（かや）」とは、屋根を葺く草の総称のことで、ススキや葦（よし・あし）などの他、収穫後の麦わらなど、昔の人は、身近にある草（植物）を使っていたようです。

なお、香川県では、「茅葺き屋根」という呼び方よりも「わらぶき屋根」の呼び名の方が一般的だったようです。

茅葺き屋根は、葺き替えをしなければなりませんが、その際使える部分は、次に葺くときに再利用されていたようです。また、落とした茅（かや）は堆肥に利用することで、廃棄物を出さずに済みます。

茅（かや）だけでなく、土壁の土や、柱や床板の木など、昔の家では、「自然から得たもの（自然素材）を利用することで、使い終わったら自然へ返す」というサイクルができていたようです。ここにも、昔の人々の生活の知恵を学ぶことができます。

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	○地域の人々の生活				【地理】 ○世界と比べた日本の地域的特色（資源・エネルギーと産業）	【公民】 ○私たちと国際社会の諸課題（地球環境、資源・エネルギー問題） ○私たちと国際社会の諸課題（よりよい社会を目指して）	
理科							
技術・家庭(技術)							
家庭	○快適な住まい方 ○環境に配慮した生活の工夫				○住生活の工夫 ○家庭生活と環境		
技術・家庭(家庭)							